




ホーム > ニュース > 国立大学病院長会議 23年度収支見込 33病院で318億円の収支マイナス 高額医薬品の購入費用が重荷に

国立大学病院長会議 23年度収支見込 33病院で318億円の収支マイナス 高額医薬品の購入費用が重荷に

公開日時 2023/10/16 04:51

印刷 コピー   



国立大学病院長会議は10月13日の記者会見で、2023年度収支見込を公表し、42病院中33病院で総額318億円の収支マイナスが見込まれると発表した。急激な物価・エネルギー価格高騰の影響と、コロナ補助金の縮減が影響した。また、経営努力では回避できない要因で費用負担が増加した項目として「高難度治療に必要な高額薬品等」をあげ、2019年実績に比べて購入額が955億円増加したと強調。経営努力の観点から共同購入などによるコスト圧縮に取り組む方針を示した。さらに、24年4月実施の医師の働き方改革を見込み、診療報酬の引き上げと、地域医療構想、医師

の偏在対策の三位一体改革への支援を要望した。

この日公表した「国立大学病院の2023年度収支見込み」によると、42大学病院中、収支プラスは9病院で、残り33病院が収支マイナスを見込み、42病院全体ではマイナス302億円を見込んだ。